

大分市立大在小学校 学力向上プラン1（8月）

学校教育 目標	自立する力と豊かな心をもった、心身ともにたくましく生きる児童の育成 ～自立・協働・思いやり～
育成を目指す 資質・能力	意欲的に学ぶ力 互いを認め合いながら伝え合い、高め合う力

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 6年生対象の全国学力・学習状況調査では、国語と算数で「知識・技能」「思考・判断・表現」とも全国平均を上回る。5年生対象の県学力定着状況調査では、国語は全国平均を下回り（領域では話し合い・物語・説明文の内容を読み取る項目が平均以下）、算数と理科は「知識・技能」「思考・判断・表現」とも全国平均を上回る。また、学力の定着に二極化の傾向がある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 6年生対象の全国学力・学習状況調査では、全ての質問項目で、肯定的な回答率が全国平均以上かそれに近かった。特に、高かった質問項目は、「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか」「平日の家庭での学習時間は1時間以上ですか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいですか」の項目である。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況（授業及び授業以外の側面から） ・一人一人が考えをもち、発言の機会を増やすための手立てとして、ヒントカードを活用しているが発言者が一部に限られている。 ・学力差を埋めるための場として、ペアやグループ学習を位置付けているが、個々の学びが高まるような話し合いには至っていない。 ・人間関係づくりプログラムを通して、共感的人間関係の構築を図っているが、間違ふことに不安を感じている児童がいる。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・授業開始までの取組 小中一貫教育の取組である「次の時間の学習準備を終えてから5分間休みを行う」取組や、更に児童同士の「Ready Go」の合言葉や黙想の呼びかけ等で、学年に応じた取組をすることにより定着しつつある。 ・どの子も分かる授業を目指した個別最適な学びの取組 授業で自分の考えをもたせるために、ヒントカード等の支援の仕方を工夫したり、振り返りなどでそれぞれのレベルに応じた問題に取り組ませたりしている。 ・協働的な学びの取組 授業で、ペアやグループ活動の導入、話し合いでの役割分担の明確化、教師がねらいを明確にした話し合い、こども同士の問い返し等の話し合わせ方の工夫、一人1台端末や思考ツールの活用をしている。 ・校内研修 全教科において「個別最適な学び」と「協働的な学び」のベストミックスを目指す。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・教科担任制やローテーション道徳授業の導入…教師の授業力の向上や児童への意欲喚起につながっている。 ・基礎・基本の定着や低学力層の児童への取組…授業の導入や終末での復習問題、隙間読書、休み時間などを使つての補充学習、家庭学習の工夫（前学年の復習、授業・家庭学習との連動、日記、自主学習）、一人1台端末の活用、保護者への協力 ・総合的な学習の時間のカリキュラムの見直し…探究的な学習活動の充実を図ることを通して、資質・能力をバランスよく育成する。	



学力に関する達成指標
・各単元末評価テストの「知識・技能」「思考・判断・表現」平均点を80点以上、50点未満を5%以下にする。 ・5年生対象の県学力定着状況調査、6年生対象の全国学力・学習状況調査で、国や県の平均を上回る。また、4年生対象の市標準学力調査で市の平均を上回る。 ・学校評価に係るアンケートにおいて「授業が楽しく分かりやすい」という質問に対し、肯定的に答える児童の割合を95%以上にする。



今後の 具体的 な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 主体的に学ぶ児童の育成	
	〈取組内容〉 児童の「主体的な学び」を引き出す授業づくりの推進	〈家庭・地域の取組内容〉 学校から配布されている「家庭学習の手引き」を参考に、家庭学習の習慣化に取り組む。
	〈取組指標〉 ①追究したくなる課題を毎時間設定。国語科を中心に単元を意識した課題づくり。 ②どの子も考えがもてる個別最適な学びを意識した授業づくりを1日1回以上設定。 ③考えの広がりを促すなどのねらいを明確にした協働の場を1日1回以上設定。 ④上記の①～③による改善がなされているか年間3回の研究授業や互見授業を通して検証。	〈家庭・地域の取組指標〉 ・家庭学習をきちんと行っているか、アンケートを実施する。
	〈検証指標〉 ・「知識・技能」「思考・判断・表現」の単元末テストの平均点が80点以上、50点以下の児童の割合を5%以下にする。 ・学校評価に係るアンケートにおいて「授業が楽しく分かりやすい」という質問に対し、肯定的に答える児童の割合を95%以上にする。	〈家庭・地域の検証指標〉 1年20分、2年30分、3年40分、4年50分、5年60分、6年70分以上、家庭学習に取り組んでいる。
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ・学び合う良好な人間関係の構築のため、人間関係づくりプログラムを実施する。 ・隙間時間と放課後の補充学習ややり直し等の個別の指導、単元の進度や復習に応じた効果的な週末課題によって、弱点補強を行う。 ・授業と連動して様々な種類の読み物を読ませるとともに、読書日記等、読解力と結び付けていく活動を取り入れる。 ・児童のICT機器活用能力の向上や、個別最適化した課題に取り組ませるため、端末の家庭への持ち帰り学習やデジタルドリル学習を実施し、教師の授業力向上のため、ICT機器研修を適宜行う。 ・学力向上について、研修部に学力向上委員会を位置付けし、組織的に取り組む。	